網走水試ミニレター

No.47　2016. 2. 5

新しい年になり少し世界の水産業の動向を見て、地域の問題を見つめることも意義のあることと考え、「世界漁業·養殖業白書 2014 年」（日本語要約版）を見てみました。水産庁や道では毎年白書を作成していますが、FAO による作成は 2 年に 1 度ですので少し古いですが最新版になります。

▼序文で「8 億人もの人々が現在も慢性的な栄養不良に苦しみ続けており、（中略）将来の世代のために天然資源を保護しながら地球に住む人々に対して食料を供給するという巨大な挑戦に我々は対処しなければなりません。」と漁業・養殖業の役割を強調しています。試験研究においても、つい生産量や生産金額に目が行ってしまいがちですが、水産業に携わる我々皆が巨大な挑戦の一部を担っていることを意識していたいものです。

▼2011 年世界の漁獲量は 9,370 万トンで、1996 年(9,380 万トン)に次ぐ史上第 2 位の記録でしたが、1996 年以降は頭打ちの状態が続いています。漁獲量が増えた地域や漁業もあれば減った地域や漁業もあり、それらが補完しあって漁獲量が維持されているようです。海面漁獲量が 100 万トンを上回った 18 か国で世界の漁獲量の 76％を占め、そのうち 10 か国がアジアになっています。漁獲量の多い国は中国、インドネシア、米国、ペルー、ロシア、日本、インド、チリ、ベトナム、ミャンマー、ノルウェー、フィリピン、韓国、タイ、マレーシア、メキシコ、アイスランド、モロッコの順です。ただし、ペルー、日本、チリ、ノルウェー、タイ、アイスランドは、この 10 年で大幅に漁獲量が減少し、米国、フィリピン、韓国は安定、その他の国は大幅に漁獲量を増やしています。

▼養殖業の生産量は 2012 年には史上最高の 9,040 万トンを記録し、漁獲量に迫る勢いです。生産量が多いのは断然中国で世界の 61%、アジアだけで 88%を占めています。2008 年以降アジアでは漁業による生産量を上回っています。オホーツク管内で漁獲量の多いホタテガイやサケを養殖業と考えると重要性が高くなっている傾向は世界と同じように思います。国立研究開発法人水産研究センターの第 3 期中期計画（H23～27）や道庁の日本海漁業振興においても養殖業を柱のひとつに位置づけています。

▼2011 年世界の水産物輸出額は過去最高を記録しました。また、FAO の魚価指数（平均単価の指標）は 2002 年から上昇し、2013 年は最高値を示しました。中国は水産物の最大の輸出国でありながら 2011 年以降、米国、日本に次いで世界第 3 位の輸入国になっています。一方、海域の漁業資源のうち持続可能な範囲内で漁業が行われている資源の割合は 71.2%(2011 年)で、28.8%は乱獲の状態にあると指摘しています。また、71.2%のうち十分に利用されている状態にある資源は、61.3%で、残り 9.9%が開発初期の段階と推定されています。天然資源の利用はすでに限界に来ており、養殖業の伸展によってなんとか人口増加率を上回る水産物供給量の増加率が続いているようです。　（網走水試 上田）